鹿児島女子短期大学

FD·SD 活動報告書 2022

- 1. 学生による授業評価
- 2. 授業公開
- 3. FD·SD 研修会

1. 学生による授業評価

<授業評価アンケート実施内容>

(単位:名)

左曲	²²	教員・助手	教員・助手	非常勤教員
年度	学期	総数	提出総数	実施・授業改善書提出数
2022 年度	前期	45	41 (91.1%)	13
2022 年度	後期	46	45 (97.8%)	10

■授業評価等依頼文書(例示:2022年度後期授業評価アンケート及び授業改善書提出依頼)

授業評価及び授業改善報告書について (令和4年度後期)

1. 後期授業評価について

実施期間:1月10日(火)~1月31日(火)

実施方法:Unipaメニュー「授業」内「授業評価回答」機能

対象者:各科目履修者

※15回授業の科目では可能な限り授業内で回答の時間をお取りください。

(回答の時間を取らない場合も回答の依頼をしてください。)

※授業評価第20間の回答には当該科目で修得すべき主なDPの内容と番号を把握している必

要があります。本学HPのカリキュラムマップを参照するよう指導してください。

(学生に対しても Unipa で URL を連絡します。)

URL: https://www.jkajyo.ac.jp/introduction/disclosure/disclosure.html#map

2. 授業改善報告書について

集計結果の公開期間:2月2日(木)~3月15日(水)

※この期間、科目担当者のみユニパで閲覧できます。

報告書の提出期限 : 3月15日(水)

報告書の作成方法 : アンケートの集計結果を踏まえ、「授業評価アンケート結果を受けての

授業改善報告」を、科目ごとに作成してください。また、令和3年度入学生

に関しまして「学生の成長に関する所見」を作成してください。

報告書の提出方法 : 指定するページ (OneDrive) にアクセスしアップロードしてください。

■授業評価アンケート(Universal Passport 使用)(例示:2022 年度後期)

12	3456789 科目A (教員B)
	※【令和4年度後期】授業評価アンケート
*	次の質問について5段階で1番近いと思われるものを選んでください。
ぁ	ななたについて・・・
	. あなたは授業を何回欠席しましたか。 (必須) ○ 欠席なし ○ 1回 ○ 2回 ○ 3回 ○ 4回以上
	. あなたは『シラバス』をよく読みましたか。 (必須) ○ 全く読んでいない ○ あまり読んでいない ○ どちらともいえない ○ おおむね読んだ ○ 十分に読んだ
3	. あなたは予習や復習を十分にしましたか (必須)
	○ 全くしていない \bigcirc あまりしていない \bigcirc どちらともいえない \bigcirc おおむねやった \bigcirc 十分にやった
4	ナルキは何世の中の大田のマファレビアネナしたと
	. あなたは授業の内容を理解することができましたか。 (必須) ○ 全くできていない ○ あまりできていない ○ どちらともいえない ○ おおむねできた ○ +分にできた
	. あなたの受講態度を次の中で評価してください。 (必須)
1	○ 悪い ○ どちらかというと悪い ○ どちらともいえない ○ どちらかというと良い ○ 良い
授	営業について・・・
6	. 授業は『シラバス』に沿って行なわれましたか。 (<u>必須</u>)
9	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
7	畑帯は トノ 準度 ナクテレナー ナナ
Ε,	. 授業はよく準備されていましたか。 (必須) ○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
	. 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。 (<u>必須</u>)
	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらとも言えない ○ そう思う ○ 強くそう思う
9	. 教員の説明は分かりやすかったですか。 (必須)
	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
	の 交目がは動か ビジャク 照けの性アス極楽でしたか (2/2)
	0.発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。 (必須)○全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
	1. 教員と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。(必須)
5	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
1	2. 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。 (必須)
	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
1	3. 板書の仕方,パワーポイントの表示の仕方,プリントの用い方は適切でしたか。(必須)
	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う
	4. 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。 (必須)
	○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う

15. 教員の熱意を感じましたか。 (必須)○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う	
16. 教員は、学生に公平に接していましたか。 (必須) ○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う	
17. テキスト, ビデオ, プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。 (必須) ○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う	
18. この授業にとって教室の環境,設備などは適切でしたか。 (必須) ○ 全くそうは思わない ○ そうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う	
19. この授業を総合的に次の5段階で評価してください。 (必須) ○ 悪い ○ どちらかというと悪い ○ どちらともいえない ○ どちらかというと良い ○ 良い	
20. この授業の主要な到達目標(カリキュラムマップ参照)について,自分の達成度を次の5段階で評価して ください。 (必須)	
○ ほとんど達成できなかっ○ あまり達成できなかっ○ どちらともいえな○ おおむね達成でき○ 十分達成できたた	
21. この授業で良かったと思うことを入力してください。 22. この授業で良くなかったと思う点,改善すべきだと思う点を入力してください。	
23. この授業について,教室・施設・設備も含め,不満・要望・その他があれば入力してください。	
これ以降の設問には下記授業を履修した方のみ回答してください。 ※対象授業 ■児教 子どもの健康と安全 乳児保育 ■福祉 生活支援技術B 喀痰吸引演習	
■食栄 応用栄養学実習 食品衛生学実験 調理学実習 I フードコーディネート演習 生化学実験A 栄養指導実習 I 給食管理実習 I 給食実務演習 I 生化学実験B	

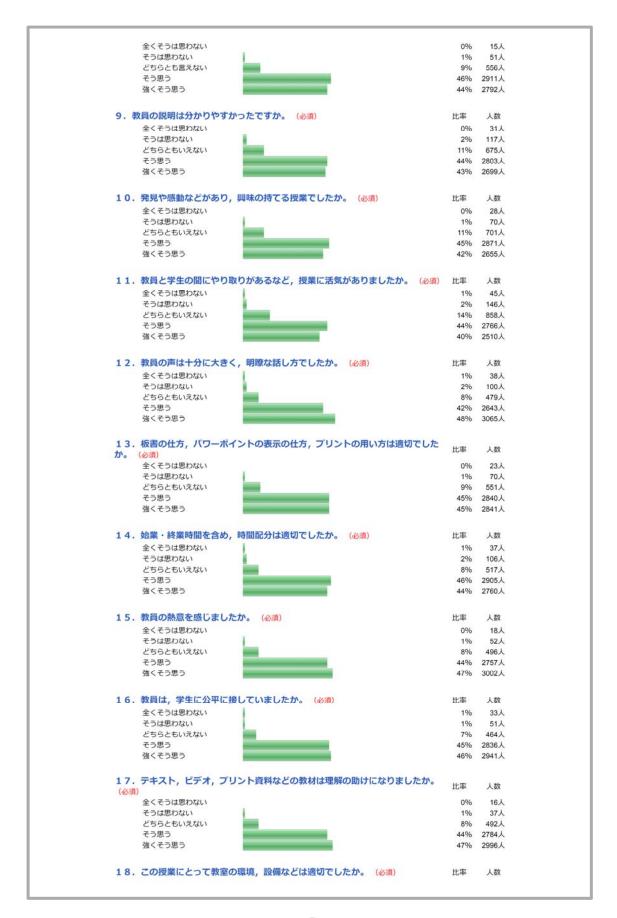
24. 助手・副手の説明は分かりやすかったですか。 【対象授業※のみ】	
○ 全くそうは思わない	
○ そうは思わない	
○ どちらともいえない	
○ そう思う	
○ 強くそう思う	
25. 助手・副手と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	
○ 全くそうは思わない	
○ そうは思わない	
○ どちらともいえない	
〇 そう思う	
○ 強くそう思う	
26.助手・副手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業※のみ】	
○ 全くそうは思わない	
○ そうは思わない	
○ どちらともいえない	
○ そう思う	
○ 強くそう思う	
 27. 助手・副手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】 ○ 全くそうは思わない ○ どちらともいえない ○ そう思う ○ 強くそう思う 28. 助手・副手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】 ○ 全くそうは思わない 	
○ そうは思わない	
○ どちらともいえない	
〇 そう思う	
○ 強くそう思う	
	回答

■「授業改善に向けて」用紙(例示:2022年度後期)

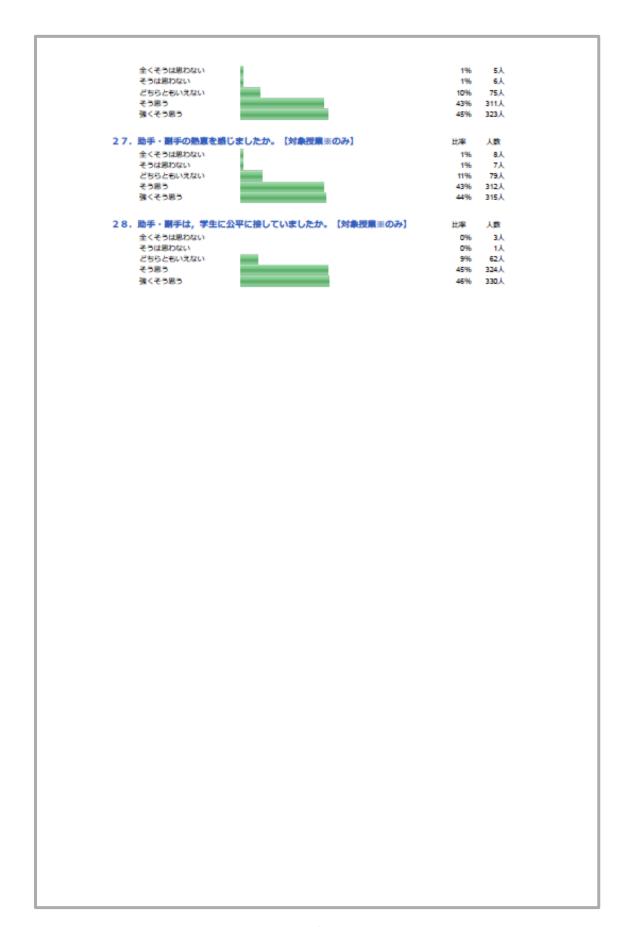
授業改善報告書	〈後期〉
	作成日:令和年月日
	教員名(所属):
授	業評価アンケート結果を受けての授業改善報告
	目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください。
	5+110名) 目の場合、記載不要です。
	学生による授業評価アンケートをもとに、総合的に振り返ってください。
学生からの質	問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただく内容でも結構です。
	,
授業科目名 (受講者数)	(名)
①今年度の 改善目標	
※前年度報告書	
	1)良かった点
	2) 改善を要する点
②授業評価 アンケート	
結果の分析	 3) カリキュラムポリシーに則って学修が進められたかの分析
	STATE TO THE STATE OF THE STATE
③次年度へ向	
けての改善	
目標・内容	

■授業評価集計結果 (例示: 2022 年度後期全体: Universal Passport 上での結果表示)









2022年度「学生による授業評価アンケート」の結果について

【アンケートの概要と結果の活用方法】

本学では、FD 活動の一環として、毎年度前期・後期に「学生による授業評価アンケート」を実施し、その結果に基づいて、各授業担当者は授業改善報告書を提出することになっている。2021 年度には、授業改善報告書の一部を変更し、カリキュラムポリシーに則っての分析も報告することになった(非常勤講師を除く)。併せて、教員は、授業改善報告書提出と同時に、「学生の成長に関する所見(DP の観点から)」を提出することになっている。さらに今年度から、これまで評価対象でなかった助手・副手についても、アンケートを実施することとした。これによって、助手・副手も含めた教員組織全体において、授業改善への意識がますます高まることを期待したい。

【アンケート結果の分析】

最初に、全体の回答率は前期が 68.4%、後期が 66.4%であり、昨年度前期の 72.3%に 比べても低くなっている。2020 年度から、学生が Universal Passport を用いていつでも アンケートに回答できるようにし、授業内で回答時間をとる必要がなくなったため、かえ って回答率が低下したと考えられる。今後も、授業時間中に回答時間を設けるなどの方策 を採り、回答率を上げる努力が必要である。

1. 学生の自己評価項目 (((1)~(5)+(20) → 学生カルテ)

アンケート項目(1)の出席率は、欠席なしと1回欠席とを合わせると、前期が89%、後期が84%であり、出席状況9割以上の一般大学生の割合(約70%)を大きく上回っている。(ベネッセ教育総合研究所「2021年大学生の学習・生活実態調査報告書」によれば、9割以上出席と回答した者が69.7%である。)例年、学生の自己評価は、項目(2)のシラバス閲覧と項目(3)の予習復習は数値がやや低く、項目(4)の理解度と(5)の受講態度はやや高い。履修登録時の指導方法や効果的な予習復習のあり方については、改善の余地がある。

項目(20)の達成度自己評価の平均値は、2021年度と同じ(前期4.1、後期4.0)であった。一定の水準を保っているとはいえ、「どちらとも言えない」「あまり達成できなかった」「ほとんど達成できなかった」の回答割合の合計が前期・後期とも15%を超えており、この層の学生の達成感を高めることが、全体的な学習成果獲得状況の向上にもつながると期待される。クラス・ホームの指導教員には、「学生カルテ」を用いて各学生の達成度を認識し、実際の成績も参照しながら適切に助言を与え、学生の修学意欲や自己肯定感につなげることが望まれる。

学年別に見ると、ほとんどの項目で1年生よりも2年生の自己評価が高く、特に達成度 自己評価の平均値は1年前期が3.9、1年後期と2年前・後期が4.1である。なお、過去3 年間を比較すると、前期・後期いずれも大きな変化は見られない。また、学科・専攻・コース別の資料からは、児童教育学科、教養学科に比べて、生活科学科2専攻の学生の自己評価が低いことがわかる。

2. DP 別達成度自己評価(項目(20))の分析

【一般教養科目(全学科共通)】

各学期の回答平均値が 4.0 を上回る科目群 (DP 番号別) が大半を占めている。DP 番号間で、学生の自己評価に有意な差は見られない。

【児童教育学科】

他学科・専攻に比べ、学生の自己評価は高いと言える(1年前期を除き、回答平均値は 4以上)。学科内の学期間比較では、昨年度と同様に1年前期の自己評価が低い(回答平均値が4未満)のに対して、2年生では「ほとんど達成できなかった」「あまり達成できなかった」とする学生が少ない。また、DP別では、①~③のうち、とくに②課題解決能力の伸長を主な目標に掲げる科目群で、学生の達成実感の高いことが見てとれる。

【生活科学科生活福祉専攻】

回答平均値は他学科・専攻に比べ低いが、学期を追うにつれ、達成感の低い学生数が減り、平均値も上がっている。また、DP別では、①~③のうち、③人間関係形成力とコミュニケーション能力の伸長を主な目標に掲げる科目群で、学期間のばらつきが大きい。

【生活科学科食物栄養学専攻】

全学期を通じて、回答平均値の最高が 4.0 であり、各学期、延べ人数で 10 名程度が「ほとんど達成できなかった」「あまり達成できなかった」と回答している。①~③の DP間で、達成度自己評価に有意な差は見られない。

【教養学科】

全学期を通じて回答平均値が4以上であり、高い値を示している。しかし、各学期で「ほとんど達成できなかった」「あまり達成できなかった」と回答した学生が10名程度(延べ人数)いる。DP番号別では、学生の自己評価にとくに有意な差は見られない。

3. 授業評価項目 ((6)~(19), (24)~(28))

授業を評価する項目(6)~ (19) の平均値は、過去3年間ほぼ同じ4点台で、高い値を示している。本学では、項目 (19) 授業の総合的評価を授業に対する満足度の指標としている (志學館未来計画における KPI の一つ) が、「5. 良い」「4. どちらかというと良い」の割合の合計は前期89.6%、後期90.0%と高い水準にある。

今年度新たに、授業を補助する助手・副手について、いくつかの質問項目を加えた(項目 $(24) \sim (28)$)。それぞれの項目は担当教員への項目 (9)(11)(12)(15)(16)に対応しており、教員の平均値と比較しても遜色のない評価であった。今後は、アンケート結果をもとに、当該授業の担当教員との連携が深まることを期待したい。

学年別に見ると、授業に対する評価は一般に2年生が1年生よりも高い。また、過去3年分のデータを比較すると、大きな変化はないが、全体的に授業評価はわずかながら下降している。学科・専攻・コース別の資料からは、授業に関する満足度(項目(19))が、所属学科で異なっていることがわかる。全学科・専攻・コース、両学期とも4.0以上の高い評価を受けているが、中でも児童教育学科小・幼・保コースは全授業の評価の平均値が前期4.6、後期4.5という高い値であり、それに幼・保コースと教養学科の4.5(両学期)が続いている。

4. 総括

授業がよくわかり、楽しければ、おのずから学生は自らの学び方や得た知識・技能に自信が持てるようになる。そんな当たり前のことを、授業評価アンケートは明確に示してくれているようである。分析の中で学科・専攻・コース間の数値の差にも言及したが、単純な比較が成り立たないことも明らかである。それでもあえて指摘したのは、、授業に対する満足度や達成度自己評価の高さは、本学の教育の質の高さを示す重要な指標となりうるからである。学生が無理なく楽しみながら学び、知識を深め、技能を高め、人間的にも成長できるような、時代に即した教育課程をこれからも模索し続けたい。

また、それぞれニーズの異なる数多くの学生たちの成長を見守り、支援してくことはけっして容易なことではない。アンケートから学生のさまざまな声を聞き取り、学生が成長を遂げるために必要な環境の整備、支援の充実を、教職員一体となって図っていきたい。

令和5年5月11日 FD・SD委員会

■授業評価(全体(前期・後期)結果 2020~2022 年度比較)

2020年度_2021年度_2022年度 前期実施

	質問項目	年度		各選拼	で肢の	回答單	区(%)		度	平均
	東門祭口	+/2	0	1	2	3	4	5	数	値
		2020	68.1	18.6	9.7	2.9	0.7		7,224	0
(1)	あなたは授業を何回欠席(公欠も含む)しましたか。	2021	76.2	13.6	5.9	3.1	1.3		7,778	0
		2022	72.4	17.1	5.8	3.3	1.3		7,284	0
		2020		4.0	17.3	24.9	43.7	10.0	7,224	3
(2)	あなたは『講義要項』(シラバス)をよく読みましたか。	2021		2.7	17.6	21.7	45.5	12.5	7,778	3
		2022		4.0	17.9	26.7	39.6	11.7	7,284	3
		2020		3.7	13.9	29.5	39.4	13.5	7,224	3
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2021		3.5	14.9	28.5	38.6	14.5	7,778	3
		2022		3.6	16.4	31.2	34.8	14.0	7,284	3
		2020		0.5	3.1	12.3	56.0	28.1	7,224	4
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2021		0.5	3.4	12.9	55.7	27.6	7,778	4
		2022		0.5	3.0	13.5	56.2	26.8	7,284	4
		2020		0.1	0.6	12.4	46.4	40.5	7,224	4
(5)	あなたの受講態度を1~5の5段階で評価してください。	2021		0.1	0.9	14.5	45.4	39.0	7,224	4
		2022		0.1	0.8	14.8	44.2	40.2	7,284	4
		2020		0.3	1.0	12.7	51.8	34.1	7,224	4
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2021		0.1	0.7	9.2	51.3	38.6	7,778	4
		2022		0.2	0.7	21.1	49.9	28.1	7,284	4
		2020		0.4	1.2	6.8	43.6	48.0	7,224	4
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2021		0.1	0.8	6.0	44.0	49.1	7,778	4
		2022		0.2	0.7	6.4	44.9	47.8	7,284	4
		2020		0.5	1.5	8.2	45.6	44.3	7,224	4
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2021		0.2	1.2	7.9	46.5	44.2	7,778	4
		2022		0.3		9.2		42.9		4
		2020		1.1	2.6	9.9	41.6	44.8	7,224	4
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2021		0.9	2.5	i . i	1 55 Å			4
		2022		0.7	2.0		T-0000-1000			4
		2020		0.9	2.4	1550	44.4	9500		4
(10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2021		0.6	2.1		44.4			4
		2022		0.6	1.9		0.000,000	2-12-12	7,284	4

2020年度_2021年度_2022年度 前期実施

	質問項目	年度	- 6	各選拼	₹肢の	回答率	革(%)		度	平均
	具向块口	十段	0	1	2	3	4	5	数	値
		2020		1.0	2.7	13.9	43.6	38.8	7,224	4.2
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2021		0.6	2.7	15.3	43.1	38.3	7,778	4.2
		2022	Ì	0.7	3.0	15.7	44.1	36.5	7,284	4.1
		2020		0.7	2.0	7.0	40.3	49.9	7,224	4.4
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2021		0.6	1.9	7.2	41.6	48.8	7,778	4.4
		2022		0.9	2.0	6.6	41.3	49.2	7,284	4.4
		2020		0.9	1.8	9.1	43.3	44.9	7,224	4.3
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、ブリントの用い方 は適切でしたか。	2021		0.5	1.7	8.0	44.6	45.2	7,778	4.3
		2022		0.5	1.2	8.4	44.0	45.9	7,284	4.3
		2020		0.8	1.5	6.9	45.1	45.7	7,224	4.3
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2021		0.3	1.5	7.7	45.1	45.4	7,778	4.3
		2022		0.5	1.6	9.0	45.0	43.9	7,284	4.3
		2020		0.4	1.0	7.1	43.5	47.9	7,224	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2021		0.2	0.6	6.5	44.9	47.9	7,778	4.4
		2022		0.3	0.7	6.9	43.7	48.4	7,284	4.4
	教員は、学生に公平に接していましたか。			0.4	0.6	6.0	43.7	49.3	7,224	4.4
(16)				0.2	0.6	5.9	45.2	48.1	7,778	4.4
		2022		0.4	0.9	6.7	44.8	47.2	7,284	4.4
		2020		0.5	1.0	6.7	43.1	48.8	7,224	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになり ましたか。	2021		0.3	0.8	6.0	5000	48.9	7,778	4.4
		2022		0.3	0.6	6.8	43.1	49.2	7,284	4.4
		2020		0.4	0.7	6.2	Parameter 1		V 200	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2021		0.2	10000				7,778	
		2022		0.2	0.6	6.7	950000	46.3	7,284	4.4
		2020		0.5	1.3	8.4				4.4
(19)	この授業を総合的に1~5の5段階で評価してください。	2021		0.3	1,1	8.9	Assessed to	36000.000		4.4
		2022		0.4	1.2	8.9			16	4.4
		2020		0.4	1.8					4.1
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1~5の5 段階で評価してください。	2021		0.3	2.1	14.4	AV SSMESH	24.5	520750025	4.0
(20)	100 H 100 M	2022		0.3	2.1	14.4	50.7	24.0	1,116	4.0

2020年度_2021年度_2022年度 前期実施

	質問項目	年度		各選折	限の	回答率	≤(%)		度	平均
	貝回視日	4段	0	1	2	3	4	5	数	値
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】									
		2022		0.6	0.6	10.0	37.2	51.6	341	4.4
(25)	助手と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】					7				
		2022		0.0	0.3	9.5	33.8	56.4	328	4.5
(26)	助手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業※ のみ									
	300000	2022		0.0	1.2	8.3	31.2	59.3	327	4.5
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】									
		2022		0.6	0.6	8.8	35.9	54.1	329	4.4
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※のみ】									
	-	2022		0.6	0.3	7.7	34.3	57.1	324	4.5

2020年度_2021年度_2022年度 後期実施

	質問項目	年度		各追	軽択肢の	回答率	(%)	-	度	平均
	34 H-1-74 L-1	7/2	0	1	2	3	4	5	数	値
		2020	64.0	17.3	11.1	5.7	1.9		5,812	0.6
(1)	あなたは授業を何回欠席しましたか。	2021	64.8	17.5	10.5	5.2	2.0		6,582	0.6
		2022	63.4	20.9	10.0	4.2	1.5	0	6,325	0.6
		2020		5.7	16.5	21.6	43.4	12.7	5,812	3.4
(2)	あなたは『講義要項』(シラバス)をよく読みましたか。	2021		2.9	12.6	25.0	43.5	16.0	6,582	3.0
		2022		6.4	16.3	25.9	37.1	14.3	6,325	3.4
		2020		3.5	12.5	26.0	40.3	17.7	5,812	3.
(3)	あなたは予習や復習を十分にしましたか。	2021		2.6	10.6	28.6	39.3	19.0	6,582	3.
		2022		4.7	13.1	29.2	36.1	16.8	6,325	3.5
		2020		0.5	2.2	11.2	56.7	29.4	5,812	4.
(4)	あなたは授業の内容を理解することができましたか。	2021		0.4	3.0	11.7	54.6	30.2	6,582	4.
		2022		0.5	2.3	12.6	56.3	28.3	6,325	4.
		2020		0.0	0.6	11.8	45.8	14.8	5,812	4.
(5)	あなたの受講態度を1~5の5段階で評価してください。	2021		0.2	0.8	13.9	45.0	40.1	6,582	4.
		2022		0.2	0.8	13.2	46.1	39.8	6,325	4.5
		2020		0.4	0.9	10.0	48.4	40.3	5,812	4.
(6)	授業は『講義要項』に沿って行なわれましたか。	2021		0.1	0.7	8.8	48.9	41.5	6,582	4.
		2022		0.2	0.6	18.8	48.5	31.9	6,325	4.
		2020		0.5	1.0	5.5	43.2	49.0	5,812	4.
(7)	授業はよく準備されていましたか。	2021		0.2	1.0	6.8	42.4	49.7	6,582	4.
		2022		0.2	0.9	6.8	45.5	46.6	6,325	4.4
		2020		0.6	1.3	6.6	44.3	47.2	5,812	4.
(8)	毎回の授業の目標は明確になっていましたか。	2021		0.2	1.3	8.2	44.3	46.0	6,582	4.
		2022		0.2	0.8	8.8	46.0	44.1	6,325	4.3
		2020		1,1	2.0	8.7	42.3	45.8	5,812	4.
(9)	教員の説明は分かりやすかったですか。	2021		0.8	2.7	9.5	43.1	43.9	6,582	4.
		2022		0.5	1.8	10.7	44.3	42.7	6,325	4.3
		2020		0.8	1.8	9.3	43.5	44.6	5,812	4.
10)	発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。	2021		0.4	2.2	9.9	43.7	43.8	6,582	4.
		2022		0.4	1.1	11.1	45.4	42.0	6,325	4.3

2020年度_2021年度_2022年度 後期実施

	新田本口	de de		各道	選択肢の	回答率	(%)		度	平均
	質問項目	年度	0	1	2	3	4	5	数	値
		2020		0.8	2.3	11.8	41.3	43.9	5,812	4.3
(11)	教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。	2021		0.6	3.1	12.7	43.8	39.8	6,582	4.2
		2022		0.7	2.3	13.6	43.7	39.7	6,325	4.2
		2020		0.5	1.9	6.0	40.6	51.1	5,812	4.4
(12)	教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。	2021		0.6	1.9	6.7	41.7	49.0	6,582	4.4
		2022		0.6	1.6	7.6	41.8	48.5	6,325	4.4
		2020		0.5	1.4	7.8	43.4	46.8	5,812	4.3
(13)	板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、ブリントの用い方 は適切でしたか。	2021		0.4	1.6	8.7	43.5	45.8	6,582	4.3
		2022		0.4	1.1	8.7	44.9	44.9	6,325	4.3
		2020		0.4	1.3	6.5	44.5	47.4	5,812	4.4
(14)	始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。	2021		0.6	1.9	7.8	44.4	45.3	6,582	4.3
		2022		0.6	1.7	8.2	45.9	43.6	6,325	4.3
		2020		0.3	0.9	6.0	41.5	51.2	5,812	4.4
(15)	教員の熱意を感じましたか。	2021		0.3	0.7	6.8	42.8	49.3	6,582	4.4
		2022		0.3	0.8	7.8	43.6	47.5	6,325	4.4
		2020		0.5	0.9	4.9	42.8	50.8	5,812	4.4
(16)	教員は、学生に公平に接していましたか。	2021		0.5	0.6	6.4	45.2	47.3	6,582	4.4
		2022		0.5	0.8	7.3	44.8	46.5	6,325	4.4
		2020		0.5	0.9	6.0	43.3	49.4	5,812	4.4
(17)	テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになり ましたか。	2021		0.3	0.9	7.3	42.6	48.9	6,582	4.4
		2022		0.3	0.6	7.8	44.0	47.4	6,325	4.4
		2020		0.2	0.6	5.0	45.6	48.6	5,812	4.4
(18)	この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。	2021		0.1	0.5	5.8	46.1	47.5	6,582	4.4
		2022		0.2	0.6	7.3	46.2	45.7	6,325	4.4
		2020		0.4	1.0	7.6	34.8	56.3	5,812	4.5
(19)	この授業を総合的に1~5の5段階で評価してください。	2021		0.3	1.2	8.4	38.3	51.8	6,582	4.4
		2022		0.3	0.7	8.9	37.7	52.3	6,325	4.4
		2020		0.1	1.5	11.0	58.4	29.0	5,812	4.1
(20)	この授業の主要な到達目標について、自分の達成度を1~5の 5段階で評価してください。	2021		0.3	1.5	13.4	57.3	27.5	6,582	4.1
		2022		0.3	1.4	13.7	58.2	26.5	6,325	4.1

2020年度_2021年度_2022年度 後期実施

	M-88+X C	年度		度	平均					
	質問項目	4段	0	1	2	3	4	5	数	値
		2020		-	-	12	-	-	22	-2
(24)	助手の説明は分かりやすかったですか。【対象授業※のみ】			-	-	-	_		12	-
		2022		0.7	0.8	9.9	44.6	44.0	734	4.3
		2020		-	-	1 _	-	~	12	-
(25)	助手と学生の間にやり取りがあるなど、授業に活気がありましたか。【対象授業※のみ】	2021			-	1 -	-	~	-	-
		2022		0.6	1.3	12.1	44.2	41.9	718	4.3
		2020		-	-	12	PE	62	1,2	-
(26)	助手の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。【対象授業 ※のみ	2021		-	-	12	PE	62	1.2	-
		2022		0.7	0.8	10.4	43.2	44.9	720	4.3
		2020		-	-		-	-	-	-
(27)	助手の熱意を感じましたか。【対象授業※のみ】	2021		-	-	-	-	-	-	-
		2022		1.1	1.0	11.0	43.3	43.7	721	4.3
		2020		1-1		-		7	7 x =	-
(28)	助手は、学生に公平に接していましたか。【対象授業※の み】				-				-	-
		2022		0.4	0.1	8.6	45.0	45.8	720	4.4

■授業評価(2022年度:学科別「学習の達成度自己評価」)

2022 年度学習の達成度自己評価(全学科一般教養)

一般教養科目 DP

- ①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
- ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
- ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
- ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

2022年度入学1年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった	②あまり達成 ③最低限 できなかった 達成できた					⑤十分 達成できた		
1	6	345	4.1	1	0.3%	10	2.9%	60	17. 4%	170	49.3%	104	30.1%
2	5	358	4.0	1	0.3%	9	2.5%	58	16. 2%	213	59.5%	77	21.5%
3	3	153	4.0	1	0.7%	1	0.7%	38	24. 8%	73	47. 7%	40	26.1%
4	4	185	4.0	0	0.0%	4	2.2%	28	15. 1%	108	58, 4%	45	24.3%

2022年度入学1年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		んど達成 いった		り達成かった		低限できた		おむね できた		+分 できた
1	7	299	4. 2	0	0.0%	2	0.7%	28	9.4%	167	55.9%	102	34.1%
2	6	387	4. 2	2	0.5%	3	0.8%	48	12.4%	214	55.3%	120	31.0%
3	0	0		0		0		0		0		0	
4	3	28	4.3	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	13	46.4%	11	39.3%

2021年度入学2年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限できた		おむね できた		+分 できた
1	1	1	4. 0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
2	3	7	3. 6	0	0.0%	0	0.0%	4	57.1%	2	28.6%	1	14.3%
3	0	0		0		0		0		0		0	
4	3	9	4. 0	0	0.0%	0	0.0%	3	33.3%	3	33.3%	3	33.3%

2021年度入学2年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 sかった		り達成かった		t低限 できた		おむね できた		十分 できた
1	1	1	4. 0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
2	3	7	3. 1	2	28.6%	0	0.0%	2	28.6%	1	14.3%	2	28.6%
3	3	178	4. 1	0	0.0%	2	1.1%	33	18.5%	97	54.5%	46	25.8%
4	1	5		0		0		1		3		1	

2022 年度学習の達成度自己評価 (児童教育学科)

児童教育学科 DP

- ① (教育・保育に必要な専門性)教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。
- ② (課題解決能力)教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。
- ③ (豊かな人間性)教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探求し向上しようとする態度を有している。

2022 年度入学 1 年生 (前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		ト分 できた
1	13	1519	3.9	3	0.2%	23	1.5%	301	19.8%	944	62. 1%	248	16.3%
2	0	0		0		0		0		0		0	
3	4	646	3.6	4	0.6%	39	6.0%	231	35.8%	309	47.8%	63	9.8%

2022年度入学1年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		しど達成 かった		り達成 かった		低限できた		おむね できた	⑤- 達成で	ト分 できた
1	15	1320	4.0	1	0.1%	19	1.4%	211	16.0%	792	60.0%	297	22.5%
(2)	4	400	4. 2	0	0.0%	5	1.3%	50	12.5%	204	51.0%	141	35.3%
3	3	362	4. 0	1	0.3%	9	2.5%	66	18.2%	209	57. 7%	77	21.3%

2021年度入学2年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限できた		おむね できた		+分 できた
1	24	1051	4. 2	0	0.0%	1	0.1%	107	10.2%	626	59.6%	317	30. 2%
2	10	685	4. 3	0	0.0%	0	0.0%	68	9.9%	377	55.0%	240	35.0%
(3)	3	109	4.1	1	0.9%	0	0.0%	11	10.1%	75	68.8%	22	20. 2%

2021 年度入学 2 年生 (後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	27	711	4. 2	1	0.1%	2	0.3%	50	7.0%	436	61.3%	222	31. 2%
2	8	242	4.4	0	0.0%	0	0.0%	14	5.8%	120	49.6%	108	44.6%
3	6	109	4. 0	0	0.0%	1	0.9%	22	20. 2%	63	57. 8%	23	21.1%

2022 年度学習の達成度自己評価(生活科学科:生活福祉専攻)

生活科学科生活福祉専攻 DP

- ①(専門的知識・技能)介護福祉士及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門知識と技能を修得している。
- ②(主体的・創造的な課題解決能力)修得した専門知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、自主的・創造的に貢献する能力と意識を持っている。
- ③ (人間関係形成力とコミュニケーション能力) 倫理観と責任感を持ち、コミュニケーション能力と協働性を身につけ、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。

2022年度入学1年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 iかった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	11	66	3.8	0	0.0%	2	3.0%	23	34.8%	25	37. 9%	16	24. 2%
2	2	12	4. 2	0	0.0%	0	0.0%	2	16.7%	6	50.0%	4	33.3%
3	0	0		0		0		0		0		0	

2022年度入学1年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		んど達成 こかった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	13	56	3.8	1	1.8%	1	1.8%	15	26.8%	31	55. 4%	8	14.3%
2	4	14	3.8	0	0.0%	1	7.1%	3	21.4%	8	57. 1%	2	14.3%
3	1	5	3.4	0	0.0%	0	0.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%

2021年度入学2年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	8	48	3.9	0	0.0%	0	0.0%	15	31.3%	23	47. 9%	10	20.8%
2	7	29	3.9	1	3.4%	0	0.0%	7	24. 1%	13	44.8%	8	27.6%
3	1	8	3.9	0	0.0%	0	0.0%	2	25.0%	5	62.5%	1	12.5%

2021年度入学2年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 sかった		り達成 かった		低限できた		おむね できた		├分 できた
1	8	47	3.9	1	2. 1%	2	4.3%	8	17.0%	27	57. 4%	9	19.1%
2	5	21	4.0	0	0.0%	0	0.0%	5	23.8%	12	57. 1%	4	19.0%
3	2	13	4. 2	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	8	61.5%	4	30.8%

2022 年度学習の達成度自己評価(生活科学科:食物栄養学専攻)

生活科学科食物栄養学専攻 DP

- ① (食物・栄養に必要な専門性)健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。
- ② (課題解決能力) 習得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。
- ③ (豊かな人間性) 食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる

2022年度入学1年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		しど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		oむね できた		├分 できた
1	15	335	4. 0	8	2.4%	12	3.6%	53	15.8%	158	47. 2%	104	31.0%
2	0	0		0		0		0		0		0	
3	1	6	3.7	1	16. 7%	0	0.0%	1	16.7%	2	33.3%	2	33.3%

2022年度入学1年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		しど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		らむね できた	⑤- 達成 7	ト分 できた
1	11	269	4. 0	2	0.7%	5	1.9%	56	20.8%	147	54.6%	59	21.9%
2	3	87	4.0	0	0.0%	2	2.3%	19	21.8%	47	54.0%	19	21.8%
3	0	0		0		0		0	ĺ,	0		0	

2021年度入学2年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	10	165	3.8	1	0.6%	5	3.0%	45	27.3%	89	53.9%	25	15. 2%
2	10	213	3. 9	0	0.0%	4	1.9%	50	23.5%	117	54.9%	42	19.7%
3	2	5	4. 0	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	1	20.0%

2021 年度入学 2 年生 (後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均回答		しど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		らむね できた		ト分 できた
1	7	158	3.7	1	0.6%	6	3.8%	46	29.1%	89	56.3%	16	10.1%
2	6	147	4. 0	0	0.0%	3	2.0%	24	16.3%	88	59.9%	32	21.8%
3	5	66	3.8	1	1.5%	1	1.5%	19	28.8%	36	54.5%	9	13.6%

2022 年度学習の達成度自己評価(教養学科)

教養学科 DP

- ① (専門的知識や技能) 現代社会に求められる知識及び技能を活用する実践力と情報を収集・分析・発信する情報活用能力を身につけている。
- ②(コミュニケーション能力)他者に共感し、コミュニケーションスキルを活かして行動する社会性を身につけている。
- ③ (グローバル社会への理解) 異文化とグローバル社会への深い理解のうえに、広い視野に立った国際性を身につけている。

2022年度入学1年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	10	571	4. 1	0	0.0%	7	1.2%	65	11.4%	349	61.1%	150	26.3%
2	3	130	4.0	0	0.0%	5	3.8%	17	13.1%	85	65. 4%	23	17.7%
3	0	0		0		0		0		0		0	

2022年度入学1年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 iかった		り達成 かった		低限できた		おむね できた		十分 できた
1	15	515	4. 2	2	0.4%	6	1.2%	55	10. 7%	299	58. 1%	153	29.7%
2	4	227	4. 1	1	0.4%	2	0.9%	31	13. 7%	131	57. 7%	62	27.3%
3	1	61	4.1	1	1.6%	1	1.6%	7	11.5%	34	55. 7%	18	29.5%

2021年度入学2年生(前期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 かった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		+分 できた
1	9	268	4. 2	0	0.0%	4	1.5%	26	9. 7%	162	60.4%	76	28.4%
2	2	82	4. 2	0	0, 0%	4	4. 9%	7	8.5%	37	45. 1%	34	41.5%
3	5	205	4. 2	1	0.5%	1	0.5%	22	10.7%	120	58.5%	61	29.8%

2021年度入学2年生(後期)

DP	科目数 (講義別)	総回答者	平均 回答		んど達成 いった		り達成 かった		低限 できた		おむね できた		十分 できた
1	9	242	4. 1	0	0.0%	7	2.9%	20	8.3%	168	69.4%	47	19.4%
2	5	189	4. 2	1	0.5%	2	1.1%	10	5.3%	122	64.6%	54	28.6%
3	7	147	4.0	1	0.7%	3	2.0%	16	10.9%	101	68. 7%	26	17.7%

■授業評価(例:2022年度後期:学生自己評価による学生別カルテ)

	⑤十分達成できた														
医印	②おおむな達成できた	0	0	0	(3)	(0)	(i)	(3)	(0)	(3)	(i)	(3)		(i)
Q20, 灣成販 (自己評/用)	②どわらともいえない													٥	
020 E	②あまり達成できなかった														
	①ほとんど達成できなかった														
	@#<.5														
惠	④どちらかというと良い				()	()		0	(1)		0	()		()
授業態度	じょうらときいえない	0	0	0			0			0				0	
€5.38	②どちらかというと悪い														
	○ 順 5														
	②十分にできた														
理解	④おおむねできた	0	0	0	(0)	0	(Ö)	(0)	(Ö)	(Ö)	©	(<u>5</u>)		0
6万%	⊗どちらともいえない													0	
Q4. 授業内容理解	②あまりできていない														
Ğ	①全くできていない														
	⑩十年からず														
後端	⊕おおむなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	()		0
BŒ PÎ-	◎かかのかもこべな?													0	
93. ¥	②あまりしていない														
	①全くしていない														
	⑤十分に號・2だ														
展	④おおむな器 がご				Ō	(0)		0	©		©	(D)		
講談要復	⊗かからときいえない	0	0	0			0			0				0	0
02.	②あまり読んでいない														
	○全く読んでいない														
	0 4 교 국 기		0											0	
饕	90 u			٥	0		0	٥	٥	0	0	(<u></u>		0
欠席回数	69 α □	0				(Ō)									
91.	⊗ ⊣⊑														
	①欠磨なし														
2022 年度授業評価 (2022 年入学 2 年)	葆	教育制度論	乳児保育 I	子どもの保健	保育内容(健康)の指導法	体有講義	教育相談	幼児と人間関係	子どもの食と栄養	社会的養護II	幼児と環境	教育課程・保育計画の	意義と編成・評価	子ども家庭支援論	日本語表現の基礎
1 (20)	本田梅中	1002	1011	1013	1101	1103	1108	1116	1119	1129	1134		2511	1147	1632
年度授業評価	补枡氏处								-						
2022	孙 羅 伸 心														

2. 授業公開

<授業公開週間実施内容>

(単位:名)

ウェナン・ナ が 日日	参観	専任	授業参観記録	備考
実施機関	科目数	教員数	提出教員数	(教員内訳)
2022年 11月28日(月)~12月23日(金)	(延べ) 31	41	28	児教 13/21 生活 8/11 教養 6/9

■授業公開週間について①「お知らせとお願い」

令和 4 年 11 月 10 日

非常勤講師 各位

FD・SD 委員長 村若 修

お知らせとお願い

秋冷の候、講義期間も半ばとなりますが、講師の皆様にはますますご健勝のこと と拝察いたします。

さて、今年度も下記の予定で授業公開期間を設けます。授業力向上のため、自らの授業に関する他者評価は重要な資料ともなりますので、公開へのご理解、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。つきましては、教務課窓口に「**後期時間割**」を用意いたしました。出勤簿押印時に確認し、実施予定の授業で公開を不可とする授業の部分のみバツ(×)印をつけていただきますようお願いします(一般教養科目等の同時開講科目は、お名前の部分に印をお願いします。)。

なお授業参観の際は、事前の講義実施予定の確認をお勧めします。(実習その他による休講等があるため)。また参観は、原則、授業開始時から終了時までとしますが、場合によっては中途参観・退出でも構いません。

参観後は、「公開授業報告書」作成のため、<u>12月25日(日)まで</u>に、ユニパでお知らせする URL から、感想等をオンラインでご回答ください。

記

令和4年度後期授業公開期間 11月28日(月)~12月23日(金)

- 概 要:①上記の期間中に授業の参観ができます。90分間に複数の授業を参観して いただいても構いません。
 - ②期間中は、「授業公開週間時間割」(時間割は教務課でご確認下さい。)に 条件が明示されていない限り、授業担当者の許可なく入退室できます。

参 観 後:①参観者は感想等をオンラインでご回答ください (公開授業報告書)。

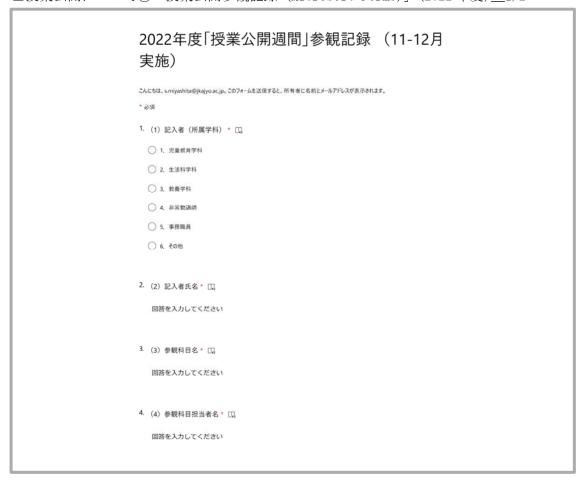
- ②記録用紙は1授業につき1枚の記入となります。
- ③報告書は回収した後、科目毎にまとめ、授業担当者へお渡しします。 (ただし、コピーを1部、 $FD \cdot SD$ 委員会で保管します。)

以上

■授業公開について②「授業公開参観記録提出依頼」(2022年度)



■授業公開について③「授業公開参観記録 (Microsoft Forms)」(2022 年度)_1/2



■授業公開について③「授業公開参観記録 (Microsoft Forms)」(2022 年度)_2/2 5. (5) 参観月* 🗔 〇 a. 11月 O b. 12月 6. (6) 参観日* 🖫 回答を入力してください 7. (7) 参観曜日 * 🖫 回答を入力してください 8. (8) 参観時間 * 🗔 ○ a. 1·2限目 ○ b. 3·4限目 ○ c. 5·6限目 ○ d. 7·8限目 ○ e.9·10限目 9. (9) 参観授業についての感想 * 🖫 回答を入力してください

2022 年度 授業公開週間について(報告)

○実施期間

2022年11月28日(月)~12月23日(金)

○参観報告書提出者数

学科	人数	備考
児童教育学科	13	4 科目参観 1 名
生活科学科	8	
教養学科	7	
合計	28	総提出数 31

○参観科目一覧<() は参観者人数>

情報通信技術を活用した教育 の理論及び方法(1)	子育て支援(2)	デジタルビジネス概論(l)
子どもの理解と援助(1)	道徳教育の指導法(3)	ビジネスワーク(2)
子どもと音楽Ⅱ(1)	社会福祉援助技術(1)	日本文学(1)
音楽科指導法(1)	栄養指導論 II (1)	臨床人間学(1)
子どもと音楽IV (1)	介護総合演習Ⅳ(2)	歴史学(1)
子ども家庭支援の心理学(1)	給食管理実習Ⅱ(2)	日本語表現の基礎(1)
保育・教職実践演習(2)	日本語表現法Ⅱ(1)	SDGs 論(2)
情報メディアの活用(1)	データサイエンス概論(1)	デジタルビジネス概論(1)

○参観報告(内容)

授業公開期間に授業を参観した教員の割合は全体の3分の2であった。昨年度は8割の参加を得、実施方法についてのアンケートでも3分の2の教員から支持が得られていただけに、ほぼ同時期に実施した授業公開で参加者が減ったことは残念である。次年度以降、方法の改善を検討するとともに、さらに周知徹底を図り、FD活動の活性化に結びつけたい。

さて、参観報告書を見ると、自分の所属する学科・専攻の開講科目を参観した件数が圧倒的に多く、31件中23件であった(児教12、福祉3、食栄3、教養5)。一般教養科目の参観も5件あった。これらは、教育課程内における科目相互の関係を認識しておくために、有意義な参観形態であると思われる。今後、学科・専攻ごとに研究授業のようなFD活動を企画するのもよいだろう。

学科を越えた参観報告書から、印象深いものを一つ挙げておきたい。「とても刺激的で面白い授業を有難うございました。……時代が随分と変わっていることを感じさせていただきました。デジタル教科書などの体験も興味深かったです。ただ、方法的には大きく変わり、情報化時代に学生に求めるものは少し変化しても、教育において本質的に求めることは大きくは変わらないことも良く分かりました。それで、私が今学生に求めていること(例えば、常に学び直しが求められる時代になっていくので、自主

的に学ぶ姿勢と、そのための自分なりの方法を身につけることなど) は、間違っていないのだと確認できて有難かったです。一方で、やはり情報活用能力と思考能力は別物であるため、考えるということや考える力を身につけさせることの方が厄介で難しいという印象をもちました。特に Z 世代の学生たちにどのようにそのことを伝え、どうやって指導していくのかが今後の課題になるであろうと思いました。また、ICTに抵抗を感じる先生方は、操作とか新しいテクノロジーとかの表層的なところへの抵抗感なのだろうなと思っていますので、今までの知識伝達型の授業はもはやほとんど意味をなさなくなっている(調べさせてもコピペ的なもので良しとするのでは全く意味はない)ことを、教員の方がしっかりと認識して、意識を変えてもらわなければならないのだろうと感じました。そして今後は、学生自らが主体となって問題を見出し、それについて考え、本質的なことを理解していくことが大切になることを感じてもらえればよいなと思いました。そのためにも、今日のような授業を、多くの……先生方が参観してくださればいいのにと思いました。」

不易流行、教育の本質は変わらないとしても、教え方、学び方はさまざまに変化する。学ぶ側が自分の学びや成長を実感できるために、教える側は学生の学び方の変化に対応していかなければなるまい。それが一人だけの努力で難しいならば、教員同士で教え合い、学び合うことである。垣根を取り払い、互いを尊重しながら知らないことは聞き、課題は議論し合う。授業公開やFD研修が、そのような日常のFD活動のきっかけになることを期待したい。

3. FD·SD研修会

<FD·SD研修会内容>

・2022 年度第1回FD・SD研修会

テーマ「相互理解のためのグループ活動によるメタ認知」

2023年1月5日(木) 13:00-14:30 (研究授業:本館401・402室)

担 当:生活科学科 准教授 改元 香先生

参加者:本学全教職員

・2022 年度第 2 回 F D・ S D 研修会

テーマ (午前)「教育者の資質・能力とは」

(午後)「ICTを活用した学習環境の構築とデータサイエンス」

2023年3月3日(金)(午前)10:00-11:30 (午後)13:00-14:30

(研究授業:本館 402 号室)

(午前) 講師: 松﨑 康弘 学長補佐(教務担当)/児童教育学科 教授

(午後)講師:教養学科 助教 根本 大志先生 児童教育学科 准教授 内田 豊海先生

参加者:本学全教職員

■2023年1月5日(木)「2022年度第1回FD·SD研修会」



令和4年度 第1回 FD·SD研修会

日 時:令和5年1月5日(木) 13:00~14:30

会 場:本館 402 号室 ほか

目 的:

ここ数年、新型コロナウイルス感染症への対応により、教職員間の交流が限られていました。本年度、全教職員対象に行ったアンケートへの回答にも、業務において教職員間の意思疎通がスムーズに行われていないとの意見が見られました。場合によっては、コミュニケーションの不足によって誤解や不信感が生じ、業務にも支障を来しかねない状況だと感じます。

そこで、今回のFD・SD研修会では、ゲーム感覚でグループ活動を行うことにより、 教職員間の交流と相互理解を図ると同時に、同じ情報の解釈が受け取り手によって 異なることを実感していただきます。日頃から自分の認識について客観的に認識する(メタ認知)ことで、それぞれ異なる相手との意思疎通の仕方をコントロールできる ようになれば、結果的に職場内の信頼関係や協力関係に結びつきます。今回の研修 をきっかけに、今後の業務や授業について円滑化が図られ、働き方改革に繋がるこ とを期待しています。

会次第 進行: 改元FD·SD委員

- 1. 開会の辞
- 2. 学長あいさつ
- 3. 研 修
 - ・説明
 - ・グループワーク① 全グループ 402 号室
 - ・グループワーク② 奇数グループ 401 号室

偶数グループ 402 号室

・ワークの共有 全グループ 402 号室

4. 閉会の辞

■2023 年 3 月 3 日 (金)「2022 年度第 2 回 F D・ S D 研修会」



令和4年度 第2回 FD·SD研修会

日 時:令和5年3月3日(金)

午前の部 10:00~11:30 / 午後の部13:00~14:30

会 場:本館402号室

今回の FD·SD 研修会では、今後なお一層、大学教育の質向上が求められる中で、改めて教育者の資質・能力について再確認すること、また現在必要不可欠であるICTを用いた教育に対応できるスキルの向上を目指した内容を準備しました。

今回の研修をきっかけに、今後の業務や授業について見直し、さらにより良い教育の実施・提供に繋がることを期待しています。

会次第 進行: FD·SD委員

- 1. 開 会
- 2. 学長あいさつ
- 3. 研修
 - ★午前の部

『教育者の資質・能力とは』

講師 松崎 康弘 学長補佐(教務担当)

目的:「教育者の資質・能力について」は、教職課程(教員養成)についての自己点検評価と FD・SD が求められていることから設定されたもので、その第1回として、教職課程という窓をとおして「どのような学生を育てなければいけないか」についてお話しし考える機会とするものです。同時に、短大教職員も学生から見ると「教育者」であり、その資質・能力が問われるところです。大学教員は「教員免許がいらない、なくてもできる仕事」(=松崎は「揶揄」の意味も含まれていると考えます)と言われますが、大学教育の質向上が求められ、「授業が下手」「ためにならない」という評判がSNS 等を通じてあっという間に広がる時代だからこそ、教職課程に関係する教職員のみならず全員で教育者としての資質・能力について考える機会にもしたいです。

★午後の部

『ICT を活用した学習環境の構築とデータサイエンス』

講師 根本 大志 助教、内田 豊海 准教授

- 目的:令和5年度より本学ではデータサイエンスを中心としたデジタル教育プログラムが開設されます。そもそも「データサイエンス」とは何なのでしょうか。これはかなり抽象的な言葉ですが、データをただ分析するというものではなく、一連の問題解決やプロジェクト開発に大きな力を発揮する科学です。今回はデータサイエンスが私たちの授業や業務改善にも大いに役立つ可能性を、ICTと組み合わせながら議論していけたらと考えています。現在、教育現場では急速にICTが普及し、教育環境の大きな転換期を迎えています。そこで汎用性の高い Google クラスルームを用いて、データサイエンスについて学ぶと同時に新たなICT活用も体験していただき、これからの本学の教育について考えるという研修を企画しました。
- 4. 閉 会(FD·SD委員長)

あとがき

2022 年度も、FD・SD 活動は授業評価、授業公開、研修会の3本立てでした。

授業評価アンケートでは、授業を補佐する助手・副手についての項目を新設しましたが、 検討不足で教員に関する項目を援用したため、あまり相応しくない項目もありました。2023 年度からはより適切な項目に改める予定です。しかし、アンケートの範囲を助手・副手の仕 事にも拡充したことで、より目の行き届いたアンケートになったと思います。また、学生の 自己評価を抽出して作成される「学生カルテ」を、積極的に学習支援・履修指導に活用して いくことが、今後の課題です。

これまでアンケート結果に基づいて各教員が作成してきた「授業改善報告書」の内容は、2023 年度から新たに導入されるティーチング・ポートフォリオの中に移される予定です。これは、アンケート結果だけに基づくものではなく、より広い視野から、エビデンスに基づいて授業改善を目指すものとなります。ティーチング・ポートフォリオを基軸にした新しいFD 研修・FD 活動が展開されることを期待します。

鹿児島女子短期大学 F D・S D委員会 委員長 村若 修

「鹿児島女子短期大学FD・SD活動報告書」 (2022 年度版)

鹿児島女子短期大学FD·SD委員会

(2022年5月発行)